

公立大学法人 大分県立芸術文化短期大学 第2期中期目標について

第1期の成果及び評価（評価委員会）

【成果】

教育研究等の質の向上

- 教育研究内容充実
 - 造形入門、情報処理入門を開講
 - 美術科にプロダクトデザイン科目新設
 - 2年制認定専攻科設置
- 進路支援体制確立
 - 進路支援室設置、インターンシップ実施
- 地域社会との連携
 - 県、市町村と連携し学外講座や演奏会
 - 竹田キャンパス開設

業務運営改善・効率化

- 特別枠重点事業を創設（アーカイブ等）

財務内容改善

- 授業料、入学金改正、公開講座受講料

情報提供

- 広報室設置、マスコミへ情報提供強化

【委員によるコメント】

- 次期目標、計画は県立大学として大学に求められる役割を明確に
- 地域に期待される魅力ある大学づくりの取組を更に期待
- 大学経営の観点から事業の選択と集中が必要
- 必要な施設改修が遅れているので、方針を定めて、計画的に施設改修を行う。

素案に対する意見

県民の意見（パブリックコメント）

- 大分市以外でも社会人向けの講座を実施して、地域に貢献する大学を目指してほしい
 - 国際交流の推進は他大学に任せてもよい
 - ジュニアオーケストラ等を通じて、芸短大には今後も本県の芸術文化を担う人づくりに積極的に関わってほしい
 - 社会で通用する力を身につける実践的なカリキュラム等の実施を盛り込むべき
- * 意見募集期間H23.10. 3～11.2

評価委員会の意見

- 県独自の文化を創造し、発信する拠点となる姿勢を
- 「業務の選択と集中」はなるべく具体的に記載を。

第2期中期目標の主な課題・コンセプト

1 第1期の成果を踏まえ、県立の芸術文化系短期大学として地域になくはならない大学をめざす。

- 芸術文化の教育・研究を通して地域の発展に寄与する人材を育成
- 大分県の芸術文化活動の向上、行政や地域団体、県内大学との連携に努め、地域に貢献する
- 自主的・自律的な大学運営

2 第1期の評価で明らかになった課題や今後の新たな課題に対応

- 時代の要請にあった学科・カリキュラムの再編や学位取得支援の充実などを検討
- 広く社会で活躍できる職業人育成を視野に、就職率向上を図る
- 経営的観点から大学として取り組む事業の選択と集中を検討する。
- 施設改修や必要施設の充実について方針を定め、教育研究の場にふさわしい環境整備を実施

3 第2期目標は、重要・必要な項目を絞りコンパクトでわかりやすいものに

第1期は網羅的に記載 → 基本事項は整備されたので、もっと項目を絞ってわかりやすく

第2期中期目標の主なポイント（抜粋）

1 目的・法人の基本的目標等

- 芸術文化に関する専門の学芸の教授研究を通じて、幅広い教養及び優れた技能を有する人間性豊かな人材を育成し、もって大分県の芸術文化の振興及び地域社会の発展に寄与する。

2 教育・研究等の質の向上

- 芸術文化に関する専門的な知識と技能、総合的な判断力と課題解決力、社会で活躍する実践力を持った人材を育成する。
- 大学の特色を活かした適切な学科再編、カリキュラム編成、学位取得支援の充実等を行う。
- 学習効果を高めるために、カリキュラムを点検・評価し、地域や行政と連携した活動を取り入れるなど改善に役立てる。
- 一人ひとりの学生が自ら目標を設定し、その達成に向けて学ぶことができるよう学習支援と生活支援を充実
- 個々の学生に応じた進路支援を充実させ、職業人として若しくは進学して新たな道に踏み出せるよう指導し、職域の拡大や学習意欲の向上を図ることで、高い就職率・進学率を達成する。

3 業務の運営体制・効率化及び財務内容の改善

- 研究費等外部資金を獲得するための支援体制を充実。
- 講座や社会貢献事業等の成果を評価した上で、ニーズの高い事業を重点的に実施するなど、効率的な運営に向けた業務の選択と集中を図る。

4 施設整備、活用

- 計画的に必要な施設・設備の整備・活用を図る。

※素案に対する意見については、大学が作成する中期計画に反映するよう大学と協議を行う。

※下線部は重要箇所。